



2009年2月

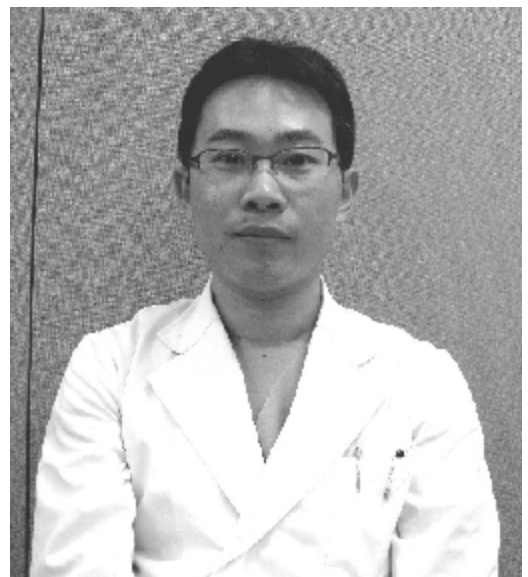
さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

シャントについて

名古屋共立病院腎臓内科 伊藤 豊

昨年4月より、名古屋共立病院腎臓内科に赴任となり、皆様の診療にあたらせていただいております。すでにシャント関連のことでお会いした方もおられるかと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。今回は、透析をされている皆様は、必ずお持ちであるシャントに関して、一般的なお話をさせていただきます。



1. シャントとは

血液透析を行うにあたり、皆さんの血管内から血液を体外に導き出し、機械できれいにした後、その血液を再び体内に戻す必要があります。そのために不可欠なのがシャントです。理想的なシャントとは、①穿刺が簡単である、②必要な血流量が取れる、③閉塞しにくく、感染にも強い、④心臓に負担をかけないという4つの項目が満たされるものです。しかし、現在はこのすべてを完全に満たしているシャントというのは存在しません。一般的な自己血管内シャントや人工血管内シャントにも欠点があるのです。

2. 自己血管内シャントと人工血管内シャント

自己血管内シャントとは、ご自分の静脈と動脈をつなぎ合わせて作られたものです。現段階では理想に近いシャントなのですが、もともとご自身の血管が細い場合には作ることは出来ません。また、仮に作って見たとしても、血管がうまく発達せずに、透析が出来ないこともあります。シャントが詰まったり、感染したりすることもあります。ただ、人工血管に比べ